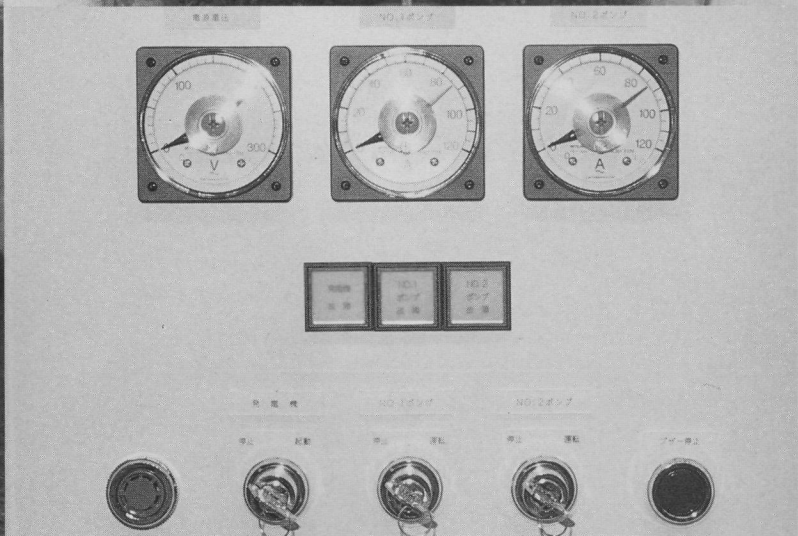
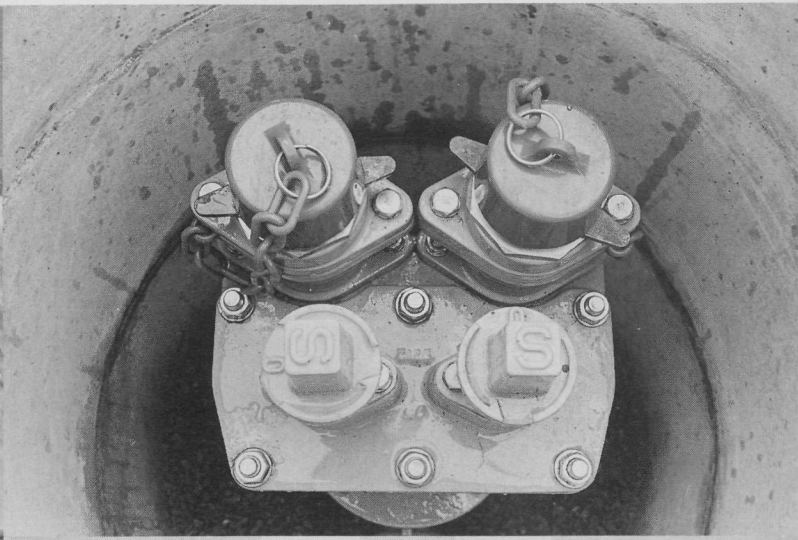
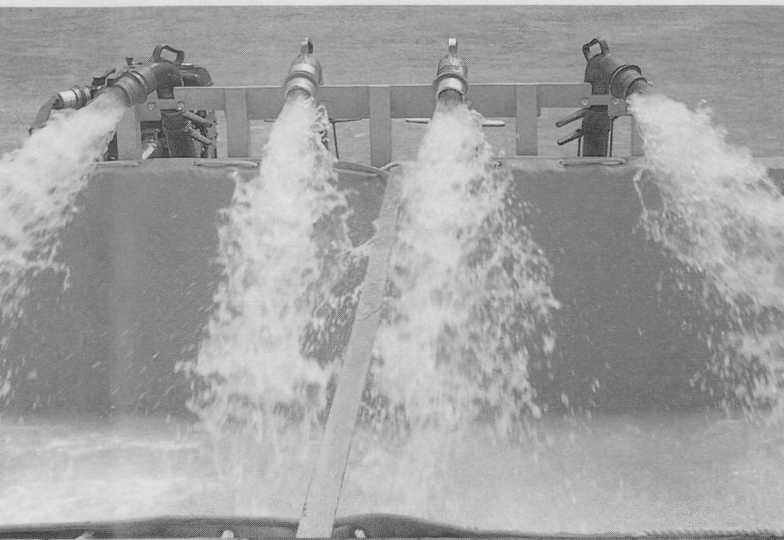


Photo ふなばし



とくしゅう
PART 1

全国で初めて実用化
海水利用の大規模消火システム

とくしゅう
PART 2

夏休みガイド
ふなばしおもしろスポット

- 市政トピックス
 - 街角ホットニュース
 - サークル通信
 - WE ARE IN FUNABASHI
- まちなかの文化財／ふなばしの民話
市民ひとことインタビュー



ワンパク王国は家族みんなで遊べます

vol. **74**

広報ふなばし写真版

7月号(隔月第4月曜日発行)

全国で初めて実用化

海水利用の大規模消火システム



5月16日に天沼弁天池公園で圧送管システムの送水式が行われました

昨年1月に発生した阪神・淡路大震災は、6300人以上の命を奪うなど、大きな被害をもたらしました。なかでも同時に多発した火災では、消火用水の確保が大きな問題となりました。船橋市では、この大震災を教訓に、海水等を利用した大規模消火システムを全国に先駆けて完成させました。これは、市が独自に研究開発を進めていたもので、震災による断水時に、雨水を流す下水道管や水路に海水を逆流させて、消火用水として利用するものです。

現在、完成しているのは、このシステムのうち、ポンプでくみ上げた海水をパイプ（圧送管）を通して送る圧送管方式で、5月16日には、天沼弁天池公園で送水式が行われました。これにより、船橋駅周辺の住宅密集地を含む本町、湊町の一部80ヘクタールをカバーします。

また、下水道の雨水放流管に海水を逆流させ、マンホールからくみ上げる下水道利用方式も12月までに完成する予定で、河川や水路から水をくみ上げる直接取水と併せると、JR総武線南側を中心とした1010ヘクタールで消火活動が可能になります。

たくさんの関係者や報道陣が見守るなか、



大橋和夫市長の無線連絡で、山谷水門の取水ポンプが起動し、送水が開始されました



日の出水路に設置された山谷水門取水ポンプ。システムが稼働すると、このポンプから毎分5トンの海水が取り込まれます

